平成二十六年度 活動報告

平成二十六年度「肥後医育塾」年間テーマ「さまざまな病気と栄養・長寿」を開催

常任理事（事業担当）　遠藤　文夫

県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、（公財）肥後医育振興会、（一財）化学及血清療法研究所及び熊本日日新聞社の主催で、年間テーマに「さまざまな病気と栄養・長寿」を取り上げ、三回の市民公開セミナー（第五十二回～第五十四回）をホテル熊本テルサで開催するとともに、毎回、熊本日日新聞紙上で「肥後医育塾特集」を二ページに亘って内容を紹介しました。

「栄養」に関わる問題として、メタボなど過栄養についてはよく耳にします。しかし一方では、加齢に伴う食欲減退による栄養不足、後遺症による嚥下障害で栄養摂取がままならないなどの問題もあります。病院や施設で、ＮＳＴ（栄養サポートチーム）の活動が注目されていることもその表れと言えます。

そこで、今年度の肥後医育塾では、さまざまな病気とそれぞれの疾患における栄養対策について考え、それぞれの基礎知識について専門医の先生方から分かりやすく解説していただきました。

第五十二回は、七月六日（日）にホテル熊本テルサにおいて、「生活習慣から消化器の病気を考えてみよう」と題して開催しました。

健康を守るためには、日ごろの生活習慣が重要であることは言うまでもありません。しかし、食べすぎ、飲みすぎ、運動不足など、分かっていてもなかなか改善できないのです。今回のセミナーでは、生活習慣と肝臓や食道をはじめとする消化器の病気とのかかわりに注目し、専門の先生方に病態や予防法などについて分かりやすく解説していただきました。

司会を遠藤文夫肥後医育振興会常任理事が務め、座長を佐々木裕熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学分野教授にお願いしました。

最初の講演は、熊本大学医学部附属病院消化器内科助教の庄野孝先生から「生活習慣からおきる食道の病気～逆流性食道炎と食道がん～」と題して、生活習慣を改善することで予防できることや逆流性食道炎の内科的治療から食道がんの内視鏡治療まで詳しく講演をいただきました。

講演の二番目は、熊本大学医学部附属病院消化器内科特任助教の階子俊平先生から「飲酒からの膵炎、そして膵がん」と題して、膵臓の代表的な病気である急性膵炎、慢性膵炎、膵がんについて、飲酒との関わりや検査・治療法について講演をいただきました。

講演の三番目は、熊本大学医学部附属病院消化器内科助教の渡邊丈久先生から「意外と怖いぞ、脂肪肝」と題して、脂肪肝に関する最新の話題について講演をいただきました。

講演の四番目は、熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学分野助教の直江秀昭先生から「健康にとって大事な腸内細菌」と題して、善玉菌や悪玉菌など腸内細菌について分かりやすく解説していただくとともに、腸内細菌の乱れが関係している病気について、また、腸内細菌を改善する食事について講演をいただきました。

講演の五番目は、熊本中央病院栄養科科長の村岡まき子先生から「食事・栄養面の生活習慣」と題して、消化器の病気と食事について講演をいただきました。

講演終了後の総合討論・質疑応答では、講演者全員が登壇し、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形で行いました。約三五〇人の来場者があり、内容を、八月二十二日の熊日新聞紙面に掲載しました。

第五十三回は、一月二十一日（水）にホテル熊本テルサにおいて、「いつまでも食事を楽しむために～嚥下障害・口腔ケア・食事の工夫・肺炎～」と題して開催しました。

本来であれば十月十三日に開催する予定でしたが、当日台風が襲来したため急遽延期して開催したものです。

「食べる」ということは、栄養摂取の面だけではなく、おいしい料理を味わい楽しむという気持ちの面でも大きな意味があります。誰もが、年齢を重ねても、いつまでも自分の口で食事をしたいと願うのではないでしょうか。今回のセミナーでは、いつまでも食事を楽しむためのヒントとして、嚥下障害、口腔ケア、食事の工夫について専門の先生方に分かりやすくお話しいただきました。また、日本人の死因の三位となった肺炎についても、高齢者に多くみられる誤嚥性肺炎などを含めて解説していただきました。

司会を遠藤文夫肥後医育振興会常任理事が務めました。

最初の講演は、熊本大学大学院生命科学研究部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野教授の湯本英二先生から「どのように食物を飲み込むの？」と題して、私たちがどのように食物を飲み込んでいるのか、どんなときに口から食事をとれなくなるのかを分かりやすく講演をいただきました。

講演の二番目は、熊本大学名誉教授の篠原正徳先生から「歯と口腔を大切に」と題して、自分の歯で食べることが身体機能の維持や老化の抑制に重要な働きをしていることなどについて講演をいただきました。

講演の三番目は、熊本大学医学部附属病院栄養管理部栄養管理室長の猪原淑子先生から「食べやすい食事の工夫」と題して、身体機能の変化を理解し、変化に応じた食べやすく、おいしく安全に食べられる食事の工夫について講演をいただきました。

講演の四番目は、熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内科学分野教授の興梠博次先生から「高齢者の肺炎とその予防」と題して、誤嚥性肺炎は、口や鼻の細菌が気管支に落ち込んで誘発される肺炎で、その予防には、喉の機能が維持され咳反射を失わないことが重要であることから、その対策と予防について講演をいただきました。

講演終了後の総合討論・質疑応答では、講演者全員が登壇し、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形で行いました。約三五〇人の来場者があり、内容を、二月二十三日の熊日新聞紙面に掲載しました。

第五十四回は、二月八日（日）にホテル熊本テルサにおいて、「慢性腎臓病と栄養」と題して開催しました。

司会を山本哲郎肥後医育振興会副理事長が務め、座長を向山政志熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学分野教授にお願いしました。

「成人の八人に一人」「新たな国民